

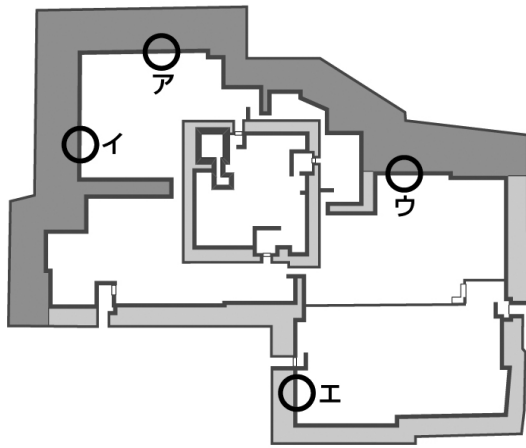
名古屋城検定 過去の問題例

〔中級問題例〕

設問 1

名古屋城は戦いに備えた要塞でした。城の各所には、防備のために様々な仕掛けが施されていました。右の写真は、名古屋城内に残る「南蛮練塀」の遺構です。南蛮たたきで固められた堅固なもので、円形の鉄砲狭間が見られます。この塀はどこにあるでしょう。

- ① ア ② イ ③ ウ ④ エ



「名古屋城見取図」

設問 2

江戸時代、現在の名城公園内の西の部分から西区堀端町辺りにかけて、「御深井御薬園」と名付けられた薬草園がありました。これは徳川将軍家から39種類の薬草を譲り受けた尾張徳川家当主が開設したものでした。その意図は、尾張徳川家当主の正室が病弱であったためとか、籠城に備えてとか伝えられています。薬草を譲った将軍と譲り受けた尾張徳川家当主の正しい組み合わせはどれでしょう。

- ② 徳川家光（3代将軍） ・ 徳川義直（初代当主）
③ 徳川家綱（4代将軍） ・ 徳川光友（2代当主）
④ 徳川綱吉（5代将軍） ・ 徳川綱誠（3代当主）
④ 徳川家宣（6代将軍） ・ 徳川吉通（4代当主）

設問 3

下の写真は、復元された本丸御殿表書院の上段之間です。この部屋は他の部屋より床が一段高く造られ、いくつかの座敷飾が付けられています。

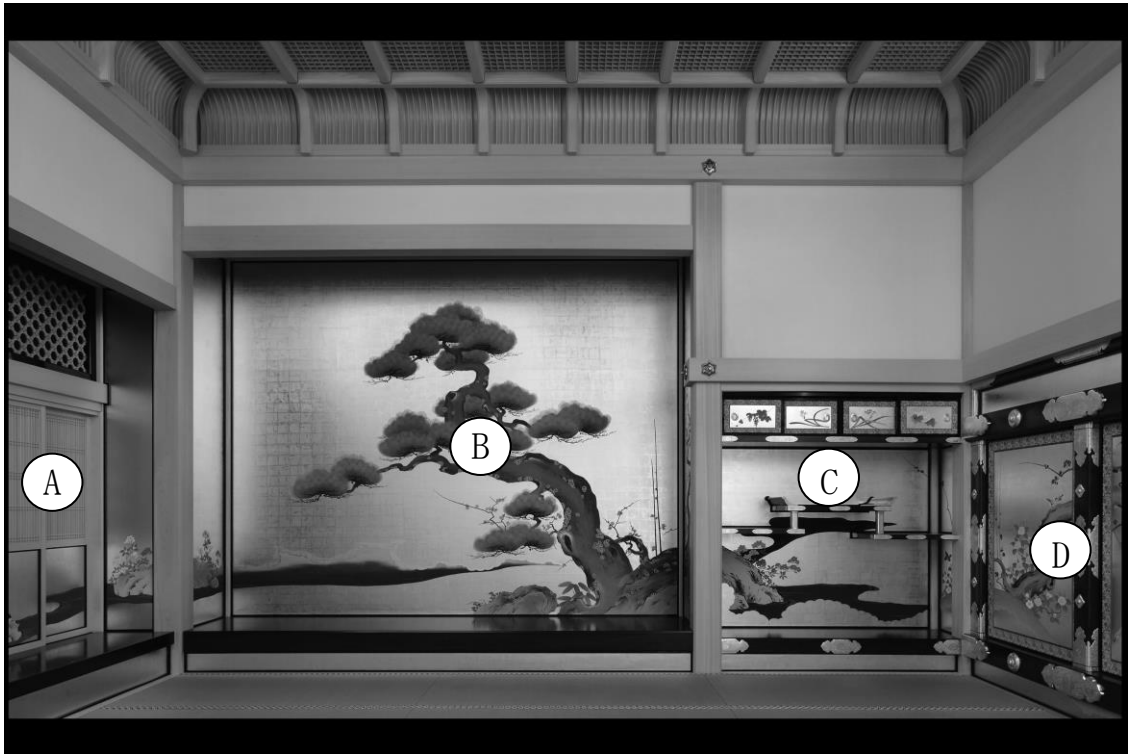
その内の一つである「付書院」はどれでしょう。

① A

② B

③ C

④ D



[中級問題例解答と解説]

設問 1

正解③

解説 二之丸庭園の北側に、いっけんコンクリートで造られたような柵があります。これが南蛮練塀です。実際は、コンクリートではなく、壁土の中に使用済みの小石や砂利と共に「石灰や油」などを入れて固めた特殊な造りになっています。テキストの 63 ページ参照。

設問 2

正解②

解説 そもそもお城には、合戦に備えて、籠城の際の「食料」、怪我をした際の「薬草」、武器になる木々を植えていました。現在、全国の城は「桜の名所」になっていますが、鑑賞用の桜が植えられたのは明治以降です。現在も東門から入り、西に進むと「薬草コーナー」があります。テキストの 93 ページ参照。

設問 3

正解①

解説 書院造りで造られた各部屋は、格式や用途に応じて装飾が変わりますが、部屋内部の構成は決まっていました。A が「付書院」、B が「障壁画」、C が「違棚」、D が「帳台構」。

現在、寺院など、「床の間」がある和風建築の和室も、ほぼ同じ構成になっています。